



外壁用塗膜防水材料はどのように使われているのですか？

A 外壁用塗膜防水材料の使われ方として、大きく次の3つがあります。

(1) 新築から改修へ

建物の新築時から外壁防水が使われることは少なく、雨漏りが生じてから外壁用防水材料を施工することがほとんどです。外壁防水を施工する建物もマンション(写真-1)等の住宅から、事務所ビル、学校、病院、倉庫(写真-2)等の非住宅に用いられています。外壁構造としては、鉄筋コンクリート造、ALC造に多く用いられています。



写真-1 マンション

(2) 外壁防水から躯体保護へ、さらに建物の長寿命化へ

外壁防水は建物の防水ばかりではなく、中性化、塩害による劣化を防止して建物の長寿命化に貢献しています。特に顕著な例が重要構造物である原子力発電所建屋です。日本建築学会標準仕様書 JASS 5N「原子力発電所施設における鉄筋コンクリート工事」に、海岸近くの原子力発電所建屋の塩害防止にアクリルゴム系塗膜の有効性が明記されており、これまで多くの実績があります。



写真-2 倉庫



写真-3 橋脚

(3) 土木構造物(インフラ)の老朽化対策へ

2012年に政府が「国土強靱化」政策を打ち出しております。多くの社会インフラの老朽化が進んでおり、その改修を対象としています。本年度はインフラ元年ともいわれます。コンクリート橋梁の塩害、アルカリ骨材反応による劣化があり、その抑制に外壁防水を基盤としたアクリルゴム系塗膜防水材料は有効で

す。写真-3に橋脚のアクリルゴム系塗膜防水材料による塩害防止の例を示します。今後、土木構造物の長寿命化に向けての期待が膨らみます。

今回で、外壁塗膜防水工法のお話は終わりです。長らくのご愛読ありがとうございました。